

NPO法人グローバルリーダーシップ・アソシエーション(GLEA)のメールマガジン第145号をお届けします。ご意見・ご感想は<glea@npo-glea.org>まで。

◆今号の内容

1. トピックス
2. 最新の活動情報
3. これからの活動情報
4. コラム 大阪大学法学部国際公共政策学科4年 岡田 拓 氏

---

1. トピックス

---

◆新年のご挨拶

明けましておめでとうございます。

昨年は弊法人をお引き立ていただき、誠にありがとうございました。本年もリーダーシップ教育普及のため精進して参りますので、ご支援のほど、よろしくお願いいたします。

---

2. 最新の活動情報

---

◆大学対抗交渉コンペティション・20周年記念シンポジウムが、2021年12月4日(土)オンラインで開催されました。

また同日、日本国際紛争解決センター会場見学及び20周年記念シンポジウムのパブリック・ビューイングも実施されました。

---

3. これからの活動情報

---

◆第5回 中・高等学校交渉コンペティション

日時:3月20日(日)13:00~16:00

場所:東京都立小松川高等学校及びオンライン

後援:NPO法人GLEA/大学対抗交渉コンペティション運営委員会

---

4. 今月のリーダーシップ情報 【コラム/column】

---

◆今回、初めて現役学生によるコラムを掲載いたします。

未熟な部分も多いかと存じますが、学生に文書の書き方、考え方について

真剣に向き合ってもらい、今後の成長につなげる機会を提供する趣旨ですので、ご指導よろしくお願ひします。  
ご意見等ございましたら、事務局までご連絡下さい。

大阪大学法学部国際公共政策学科4年  
岡田 拓 氏

私は、11月6日、7日に開催された第20回大学対抗交渉コンペティションへ出場しました。2019年に行われた第18回大会以来、2度目の参加です。また、それ以外の大会も入学以来、選手のサポートなどの形で携わってきており、本年度の大会がいわば集大成でした。そこで、私が4年間本大会への関わりを通じて感じたことをお伝えします。

人を説得するための3つの要素としてエトス(信頼・人格)・ロゴス(論理)・パトス(情熱)の3つの要素が必要であるとアリストテレスは言ったとされていますが、私は本大会を通じてこのことを強く再認識しました。

交渉の部では、単に自分たちが求めていることを強気に伝えるだけでは独善的になりますし、相手方への理解を深めることによって新たにwin-winとなる解決策が見つかります。また、仲裁の部においても、法的な紛争解決の場であるとはいえ、単に論理に基づく主張さえすればよいというものではありません。仲裁人や相手方に真摯に向き合い、かつ自社が置かれている状況をヴィヴィッドに伝えてこそ、仲裁人の方は納得していただけるのだと感じました。

日常生活において、上司であれ、家族であれ、相手が誰であっても自分の考えを伝え動いてもらわなければならない場面に毎日何度も向き合わなければなりません。この大会への出場と2か月間の準備を通じて論理的思考力や戦略的思考力はもちろん向上したと思います。しかし、何よりも自分の糧になったと実感していることは自分の考えを相手に伝え、動いてもらう方法を考え続けた経験です。

私は、3月で大学を卒業し4月からは新社会人となります。今後、幾度となく本大会で得られた経験が役に立つ場面が来るのではないかと感じています。本大会に出場させていただき、かけがえのない経験をさせていただいたことに感謝しています。

---

情報募集中

---

メールマガジン「グローバルリーダーシップ通信」で、  
会員の皆様に発信されたい内容や活動等がございましたら、  
毎月20日頃迄に事務局までご連絡下さい。

---

本メールマガジンについて

---

配信先ご変更や配信ご不要の場合は、件名に「配信先変更」又は

「配信不要」と明記して[glea@npo-glea.org](mailto:glea@npo-glea.org)迄ご連絡下さい。

=====

発行元：NPO法人グローバルリーダーシップ・アソシエーション

発行責任者：野村 美明

編集者：事務局 神谷 留奈

(TEL)070-6560-2633

(FAX)06-6853-3081

(E-mail)[glea@npo-glea.org](mailto:glea@npo-glea.org)